

6. アームガード製作編

アームガードも写真のような一般市販品でも特に問題が起きなければ解像や試作をする必要はないのかもしれない。

ただ、アーチェリーをやっていると押し手をなるべく素直に押しアンカーをセンターに持っていくストレットダンスに近づけた場合問題が起こる場合がある。

それはサル腕気味の場や余りにもストレットにしたためにアームガードにストリングが当た



市販品参考

市販品のアームガードの中で剛性を重視したためか厚みがかなりあり、そのために幾人かのアーチャーで干渉している人を見かけた。

そこで、シユート状態を見せていただいて多少のダンス変更で改善できる場合はいいが、もう少しだが調整しにくい場合に使えるアームガードを考えてみた。

目標

- 1.出来るだけ薄く作る
- 2.軽量化を計る。
- 3.安価に作る。
- 4.多少は強度は犠牲にする。



型紙



プラスチック板に型紙を乗せて切り取る。



バンド取り付け例



接触注意

装着状態

まず型紙を作ってみる。ベースの素材はいろいろな素材を当たったが、一番感触がよかったのがエースポレン薄と言う発泡性のプラスチック板であった。型紙にあわせて切り取って適度なゴムひもを通して必要に応じてストッパーを使うことも出来る。

実際にこのタイプを4名の人が使ってもらっているが、往々にして好評である。とくにアームガードに干渉していた選手にはいいみたいである。実際柔らかで厚みが1mmのため腕に添う形になるのでストリングはかなりクリアしやすいようである。

うすいのであるがストリングが面に当たっても痛みはなく使用には耐えるが内側のエッジに当たると変形しやすいのでストリングが当たらないようにセットして使用する必要がある。